

おもしろ小話

ドーダーとカルバリアの木

ドーダーはモーリシャス島で約300年前まで生きていたハトの仲間です。カルバリアの木の実をドーダーに食べられて砂嚢で種皮を傷つ



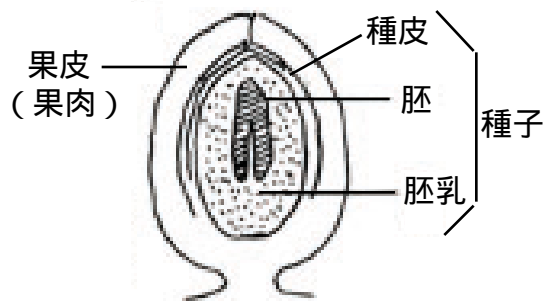
ドーダー

けられて初めて発芽できたのではないかと考えられています。

果実の予備知識

今回取り上げている木の実の主はみずみずしい果皮を持った果実です。そのような果実のことを液果（えきか）といいます。

果実



***** 展示内容 *****

- ・野鳥による種子散布 (概念図)
- ・野鳥の食卓
(メニュー、味覚、消化)
- ・植物の戦略
- ・まめ知識・小話コーナー

次の方たちに
写真提供にご協力いただきました
(五十音順、敬称略)

石井光美
西巻 実
馬場孝雄

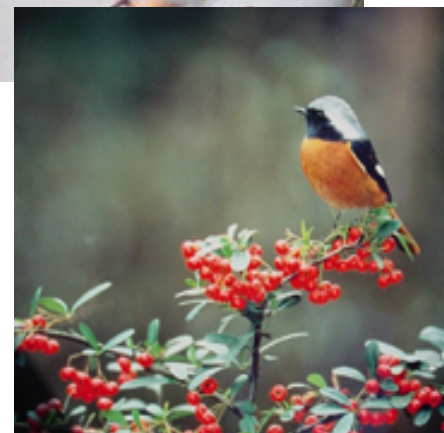
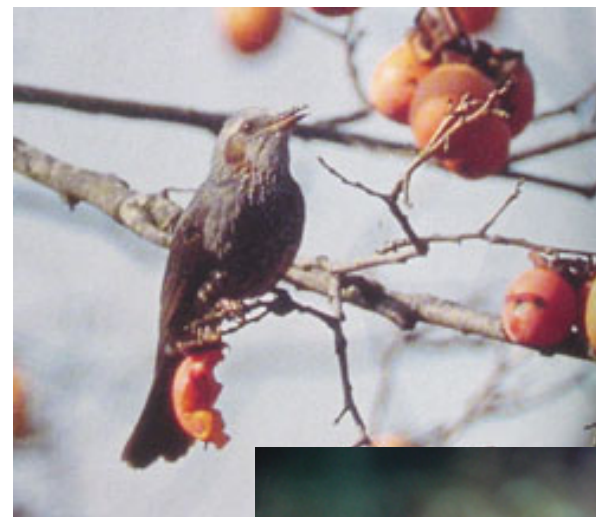


またお越しく下さい

第38回企画展

鳥と木の実

～種子散布者としての野鳥～



平成15年10月4日(土)から
平成16年2月1日(日)まで
我孫子市鳥の博物館

はじめに

私たち人間を含めた生物は他のさまざまな生物と関わりながら現在まで進化してきました。たとえばアメリカにいるハチドリは花の蜜が大好物です。しかし植物はただ取られるためだけに蜜を作っているのではありません。蜜をあげるかわりにハチドリに花の受粉をしてもらうのです。花の蜜を飲むためにハチドリのくちばしは長く細く変形し、植物は蜜だけを取られないように花の形を変えます。このように異種間で互いが関わり合いながら進化することを共進化といいます。今回の企画展では鳥と木の実の共進化についてふれ、鳥、植物、それぞれの視点から展示をしています。鳥になった気持ちで、また植物になった気持ちで展示を見てみるとおもしろいでしょう。



赤い実は誰のため？

鳥が大好きな食べ物の1つに木の実があります。秋から冬にかけて赤い実をつける植物が目立ちますが赤い実は緑の葉の色と補色関係にあってとても目立って見えます。鳥にとって枝先の赤い実は見つけやすく、容易に得ることのできるエサとなります。植物は鳥に食べさせるためだけに実をつけているのでしょうか？

シロハラ



赤い実をよく食べる鳥

果実食の代表選手は「ヒヨドリ」です。私たちの最も身近な野鳥として親しまれています。その他にツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、ムクドリなどもよく赤い実を食べに来ます。

種子散布とは？

植物は一度そこに根をおろしてしまうと移動することはできません。次の世代を他の場所で芽吹かせるために植物は他の物の力をたくみに利用しています。それは風や水、アリや動物だったりします。種子を運んでもらうために植物はいろいろな工夫をしていることがわかります。鳥もその中の1つなのです。

センリョウ



鳥の糞をよく見てみよう！

秋や冬、落ちていた鳥の糞をよく見てみましょう。この時期の糞には木の実の種子が入っていることが多いのです。どんな木の実を食べているのかわかるかもしれません。

糞に含まれていたマンリョウの実、皮が向けている

